

CONTENTS

- 3 〔連載特集〕つながる つなげる
- 4 まちの話題
 - <Pick UP!>
 - 5月4日は、ふでりんのお誕生日！
 - 第17回 図書館まつりを開催します！
 - 「広報くまの」についてのアンケート結果をお知らせします
- 8 いきいきくまの（当番医・保健行事）
- 10 けんこう通信
- 11 くまの・こども夢プラザ
子育て支援センター通信
- 12 ハロー！公民館・図書館です
- 14 ぼくたちの学校！わたしたちの学校！
- 16 筆の里工房
- 17 暮らしの情報
 - <Pick UP!>
 - 第53回 熊野町ピンポン大会を開催します
 - 『スマホ教室』参加者募集中！
 - 療育手帳判定会を実施します
 - 軽自動車税の減免申請を受け付けています
 - まちの魅力を活かした特産品を開発する事業者を応援します！
 - 特殊詐欺被害にあわないために…

記号の説明

時日時 **開**開館日 **休**休館日 **所**場所
対対象 **¥**参加費・料金 **持**持ち物
定定員 **講**講師・指導者
申申し込み場所・方法など
締申し込み締切日 **問**問い合わせ先
 ※料金や申し込みなどの記載がないものは無料、申し込み不要です。

 介護予防・ボランティアポイントの対象事業です。

今月の表紙



5月5日は、こどもの日

「こどもの日」は、子どもの健やかな成長を願い、子どもを大切に作る気持ちを伝える日とされています。

そこで、元気いっぱい子どもたちが集まるくまの・こども夢プラザにおじゃましました。

この日は、「おひさまルーム～リトミック～」があり、いろいろな音楽に合わせて、歌ったり踊ったり、元気いっぱい子どもたちのたくさんの笑顔が見られました。

くまの・こども夢プラザでは、毎月親子で楽しめるさまざまなイベントを予定しています。

詳しくは、ホームページやLINE、11ページの「くまの・こども夢プラザ 子育て支援センター通信」からご覧ください。

撮 影 日：4月14日(月)
 撮影場所：くまの・こども夢プラザ

公式 SNS でも生活に役立つ情報を発信中!!



▲▲▲熊野町公式 LINE



熊野町公式 Instagram



熊野町公式 YouTube チャンネル

便利で手軽に情報を！
 ぜひみんなにも使って
 もらいたいりん♪



〔連載特集〕筆の里工房周辺の整備事業 ～つながる つなげる～ （その11）

わずか75年後には、日本の人口が今の半数に減少すると見込まれるなか、“ふるさと熊野”を子や孫に残すために、私たちには今できることがあります。

個性豊かな文化を活かした魅力的なまちづくりも、移住する場所、住み続ける場所として人々をまちに惹き付ける大切な取り組みの一つのはずです。

熊野町は筆産業とそれにより培われた文化芸術が息づくまちです。このソフトパワーを活かし、この地に住む人々がつながり、まちと文化を未来につなげるため、都市公園と観光交流拠点施設の建設を進めています。

問[公園について]都市整備課 ☎820-5608 [施設について]産業観光課 ☎820-5602

～新施設への期待や感想を聞いてみました～

熊野町文化芸術のまちづくり応援大使・野村重存さん



私が初めてこの町を訪れたのは2006年でした。以来20年間、熊野の風景や歴史、そして、人々と触れあう機会をいただいています。

最初の印象は、熊野トンネルを抜けた瞬間に広がる穏やかな山並みに囲まれた、明るく、伸びやかな風景でした。そして、その印象は、お会いした町の人たちの姿にそのまま重なります。

新施設は、そんな町の人たちの憩いの場になってほしいと思います。人が集えば、さまざまな発信力が生まれ、魅力的な場として町の外へと伝わり、広がっていくでしょう。その新しい“場”が、次世代へつながる、文化創造の拠点へと育っていくことに期待します。

野村重存（1959年・東京生まれ）
 令和4年5月22日、熊野町文化芸術のまちづくり応援大使に就任。
 テレビ番組「プレバト!!」の審査員としても人気の高い画家。

野村重存さんの詳しい
 プロフィールはこちら
 からご覧いただけます▶



3月9日(日) 筆の里工房主催 「野村重存の写生大会」参加者

呉市在住の岡下さん家族

～世代を超えた交流を～

若い人も気軽に参加できる無料の造形体験や、絵の具の汚れなどを気にせず、子どもが全身を使ってアートを楽しめるイベントなど、世代を超えて文化芸術の交流の輪が広がる、心地よい空間づくりに期待が寄せられました。

また、画材の販売や図書の無料貸し出しなど、施設の機能や運営への意見もいただきました。

習字が大好き。手作業で丁寧に作られる熊野筆は、とても書きやすいです。学校で伝統工芸について学んだので、筆まつりや筆の里工房にはよく来ています。

新しい施設ができるのはとても楽しみ。家ではできないいろいろな体験をしたいな。

芽生さん（11歳）



3月20日(木・祝) 筆の日イベント来場者

広島市東区在住の夫妻

準備などが大変な大書制作を体験させていただき、ありがとうございます。

今回のイベントのように、子どもから大人まで楽しめる体験を通じて書道人口を増やし、書の文化を継承する町の取り組みに期待します。



城之堀地区在住の向井さん親子

新施設のことは、町の広報紙で見て、知っています。



創作活動など、親子で一緒に体験する時間をもつことは貴重だと思うので、そのようなイベントがあれば子どもと一緒に参加したいです。

母・委子さんと娘・栞子さん(8歳)

6月号では、奈良時代の天平筆から熊野筆に至る筆文化の未来や新施設との関わりについてをテーマに行った対談の様子をお届けします。



◀これまでの「連載特集」つながるつなげるは、
 町ホームページでご覧いただけます。